

コスモス ニュースレター EMC & 安全

Cosmos Newsletter on EMC & Safety

発行日 2024-04-01 No. 162

株式会社 コスモス・コーポレイション Cosmos Corporation

〒515-1104 三重県松阪市桂瀬町 718 番地-1

<https://www.safetyweb.co.jp/>

記事の配列は、概ね、国際規格を最初におき、米、欧、オセアニア、アジアの順です。

コスモス ニュースレター EMC & 安全 目次

エグゼクティブサマリー Executive Summary	2
IEC: 規格解説: CISPR JTF SC-A/I における 審議状況: 基本規格と製品規格の整合(2/2).....	3
IEC: 新規格リスト.....	4
ISO: 新規格リスト.....	8
UNECE: 第 191 回車両規制調和世界フォーラムの報告書(2/3).....	9
UNECE: 国連の新たな規制により、追加の運転支援システムの展開への道が開かれる	11
国際テーマ: WRC-23: スペクトラムに関する画期的な決定	12
国際テーマ: ベラルーシの市場参入条件に関する最新情報.....	13
国際テーマ: Nemko における ‘AI 保証’の能力の強化: EU の AI 法、ISO/IEC 42001 に対応	14
国際テーマ: Nemko: デジタルベースのエコデザイン評価サービスを開始.....	15
国際テーマ: インド: 現地試験施設と Nemko インドの間で、事業協定	15
国際テーマ: コスモス・ニュースから各国認証関連情報を再掲	16
<hr/>	
USA: FCC: KDB: 別の機器認可申請の試験データの参照を認める FCC のポリシーは?.....	17
USA: FCC: 5.9 GHz 帯の下位 45 MHz を高度交通システム(ITS)用途から WiFi に	17
USA: FCC: OET、7つの 6 GHz 帯 AFC システムの承認を告示	18
USA: CPSC: 住宅用自動ガレージドア閉閉装置の安全基準	19
USA: CPSC: 電動自転車(e-bike); 規則制定案の事前通知; コメントと情報のリクエスト	19
USA: FDA: 人体組織の加熱等を行う医療機器の熱的効果の評価に関するドラフトガイダンス	20
USA: DOE: 省エネプログラム: 最近の連邦官報による通知.....	21
USA: ANSI/UL: 新規格リスト	21
USA: IEEE: 新規格リスト	22
カナダ: ISED: SRSP-510, 第 6 版“1850~1915MHz 帯等帯における PCS サービス	22
カナダ: ISED: SRSP-506 第 3 版 (草案) ブロードバンドシステムを含む無線サービス	23
<hr/>	
EU: 整合規格の著作権保護に疑問の余地はない、但し 4 件整合規格へは公共の利益が勝る.....	25
EU: 医療機器規制 2017/745 の整合規格が 8 件追加.....	25
UK: 一般製品安全と機械に関する指定規格の変更案が公示	26
EU: CENELEC: 新規格リスト	27
EU: ETSI: 新規格リスト	28
オーストラリア: AS/NZS 新規格リスト	29
<hr/>	
中国: CQC: 視覚健康配慮度認証規則の改訂に関する通知	30
中国: CQC: 家庭用ガス器具の強制性製品認証実施細則の更新に関する通知	30
中国: CQC: 一般照明用ダブルエンド式蛍光灯の省エネ認証基準変更に関する通知	31
中国: CQC: 電気電子製品への有害物質の使用制限(国家推進 RoHS)認証実施細則更新.....	31
中国: 新規格リスト	32
台湾: BSMI: 「商品認証登録申請作業手順」の第 3 点附表 RE-01 CH-01 等を改正、即日施行	34
台湾: 新規格リスト	35
韓国: KATS: 安全基準遵守対象生活用品の安全基準改正 (案) 行政予告.....	35
韓国: KATS: 電気用品及び生活用品安全管理法運用要領改正 (案) 行政予告	36
韓国: KS 新規格リスト	37
<hr/>	
総務省: 電波利用環境委員会報告 (CISPR 会議の審議結果について) 概要の報告(2/2)	38
総務省: 令和 5 年度無線設備試買テスト中間報告 (第 3 次) の公表.....	44
総務省: 4.9 GHz 帯における第 5 世代移動通信システムの技術的条件: 通信審議会からの答申	44
総務省: 高度地上デジタルテレビジョン放送方式に係る制度整備: 電波監理審議会からの答申	45
経済産業省: 再生可能エネルギーの FIT 制度・FIP 制度における 2024 年度以降の買取価格等	46
経済産業省: 「消費生活用製品安全法等の一部を改正する法律案」が閣議決定されました.....	47
経済産業省: 広報パンフレット・日本のエネルギー	48
国土交通省: 「レベル 4 モビリティ・アクセラレーション・コミッティ」における 日産自動車	48

ちよっといっぷく〜小クイズコーナー IECCE CB スキームの製品カテゴリ数COSMOS 16

コスモス・コーポレイション: 自動車部品の耐水試験についてのご案内..... 24

社長の独り言



IEC: 規格解説: CISPR JTF SC-A/I における審議状況: 基本規格と製品規格の整合(2/2)

- CISPR/SC-A と SC-I のジョイントタスクフォース（以下（JTF SC-A/I）は、2006年7月に CISPR/I/195/DC として提案され設置された。そこでは製品規格に規定されており、基本規格である CISPR 16 シリーズに反映されていない技術要求項目を移転する作業を進めるために、多くの規定で整合化が図られた。近年、CISPR 32 第 2.1 版に 1 GHz 超の放射妨害波測定における受信アンテナのフルハイトスキヤン要求を導入したことで基本規格との不整合が指摘された。再度 JTF SC-A/I による審議を再開させることが決定し、CISPR32 と CISPR16 シリーズを整合化させるために、本項紹介の項目について審議することが確認された。

UNECE: 国連の新たな規制により、追加の運転支援システムの展開への道が開かれる

- UNECE の自動化/自動運転およびコネクテッド車両に関する作業部会は、運転制御支援システム（DCAS）を搭載した車両の承認に関する規定を定義し、そして、レーンキープアシストなど、先進運転支援システム（ADAS）を搭載した車両の最低限の安全要件を規定する新しい規制の草案を採択した。新しい規制は、2024年6月の採択に向けて自動車規制調和世界フォーラム（WP.29）に提出され、2025年1月に発効される予定である。

USA: FCC: KDB: 別の機器認可申請の試験データの参照を認める FCC のポリシーは?

- 関連する機器認可申請で以前に提出された試験レポートに記載の試験データを参照するための指針が述べられている FCC の文書が改訂され 484596 D01 Referencing Test Data v02r03 として発行された。

USA: FCC: 5.9 GHz 帯の下位 45 MHz を高度交通システム(ITS)用途から WiFi に

- 米国 FCC は、米国自動車イノベーション協会及び 5G 自動車協会がそれぞれ提出した、本手続きの一次報告及び命令の再審議及び部分的再審議の申し立てを却下する。
- 従って、5.850~5.895GHz (5.9GHz 帯の下位 45MHz)を高度交通システム(ITS)用途から転用し、より柔軟な免許不要用途を提供する一方、5.9GHz 帯の 5.895~5.925GHz (5.9GHz 帯の上位 30MHz)を重要な ITS 用途に引き続き割り当てた以前の一次報告及び命令を維持する。

USA: CPSC: 住宅用自動ガレージドア開閉装置の安全基準

- CPSC は、住宅用自動ガレージドア開閉器に関する消費者製品安全委員会の安全規制に含めるための前段階ステップとして、UL 規格 UL 325 の閉じ込め防止規定の変更を承認した。
- 本直接の最終規則 direct final rule は、これらの上述の変更を反映するために委員会の住宅用自動ガレージドア開閉器規制を修正する。

総務省: 電波利用環境委員会報告（CISPR 会議の審議結果について）概要の報告(2/2)

総務省: 4.9 GHz 帯における第 5 世代移動通信システムの技術的条件: 通信審議会からの答申

- 情報通信審議会では、4.9 GHz 帯（4.9 GHz~5.0 GHz）を 5G で使用するための技術的条件について検討を行い、本日、同審議会から一部答申を受けた。

IEC: 規格解説: CISPR JTF SC-A/I における審議状況: 基本規格と製品規格の整合(2/2)



Summary

CISPR/SC-A と SC-I のジョイントタスクフォース (以下 (JTF SC-A/I)) は、製品規格に規定されているが、基本規格である CISPR 16 シリーズに反映されていない技術要求項目を移転する作業を進めるために、2006 年 7 月に CISPR/I/195/DC として設置が提案された。その結果、通信ポートの伝導妨害波測定に使用する擬似通信回路網をはじめ各種事項で、整合化が図られた。近年、CISPR 32 第 2.1 版に 1 GHz 超の放射妨害波測定における受信アンテナのフルハイトスキャン要求を導入したことで基本規格との不整合が指摘された。再度 JTF SC-A/I による審議を再開させることが決定した。CISPR32 と CISPR16 シリーズを整合化させるために、以下の項目について審議することが確認された。

CISPR/SC-I/MT7 エキスパート CISPR/JTF SC-A/I メンバー
長部 邦広

前号では、以下をお伝えしました:

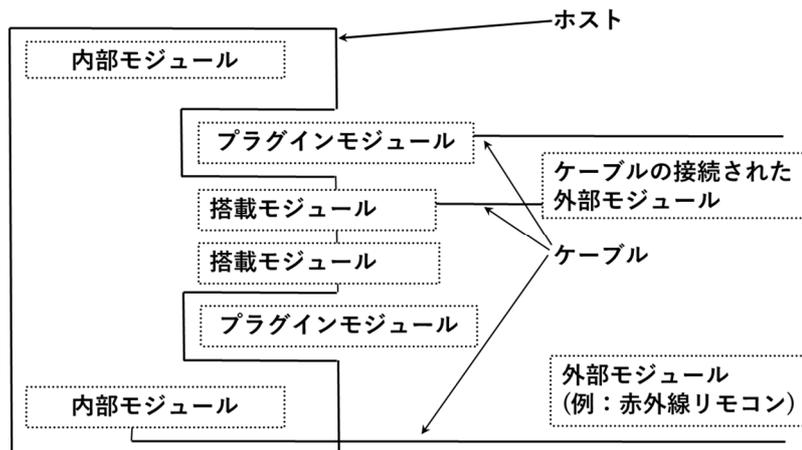
JTF SC-A/I での審議内容

1. 有線ネットワークポートの伝導妨害波許容値の理論的根拠の追加
2. CISPR 16-1-2 に CISPR 32.Ed.2.1 で新たに採用された通信用ポート AAN の追加

3. 伝導妨害波測定における測定配置に関する要求事項の追加

CISPR32 では、伝導妨害波測定における測定配置に関する事項が、本文 6.4 項図 2「ホスト システムとモジュール EUT」と付則 D の表 D.2「配置間隔、距離、および許容範囲」に規定されているおり、この内容に対応する要求事項が CISPR16-2-1 にはなかった。そこで、CISPR16-2-1 に以下 1)から 5)の内容を追加することが合意された。

- 1) CISPR 16-2-1 の 6.4.1 項に新しい項を追加して CISPR32 の本文 6 章にある内容と図 2 の「ホストシステムとモジュール EUT」を追加する。



CISPR 32 第 3 版 図 2-異なる種類のモジュールを装着可能なホストシステムの例

- 2) CISPR 16-2-1 の 6.4.1.1 項に CISPR32 の付則 D の表 D.2「配置間隔、距離、および公差」について、伝導妨害波に関連する項目を追加する。
- 3) CISPR 16-2-1 の表 H.1 を CISPR 32 の表 C.1 に差し替えし、相互参照が出来るように調整する。
- 4) CISPR 16-2-1 の図 H.1 と H.3 の矢印の位置を正しい方向に修正する。
- 5) CISPR 16-2-1 の付則 I に、EUT のインピーダンスによって妨害波電圧測定値に影響を及ぼさない



株式会社コスモス・コーポレイション

自動車部品の耐水試験についてのご案内

当社では自動車部品に対する耐水試験が実施可能です。

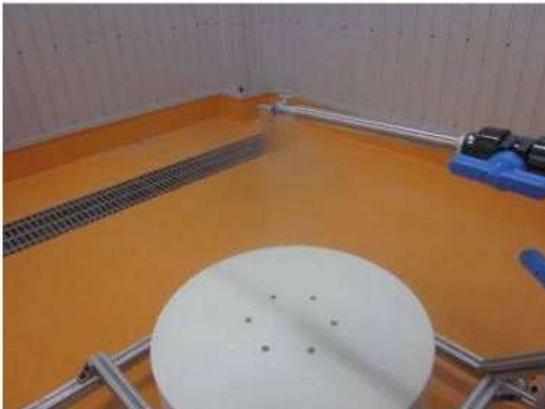
(JIS D 0203 対応)

対象試験記号: R1 / R2 / S1 / S2

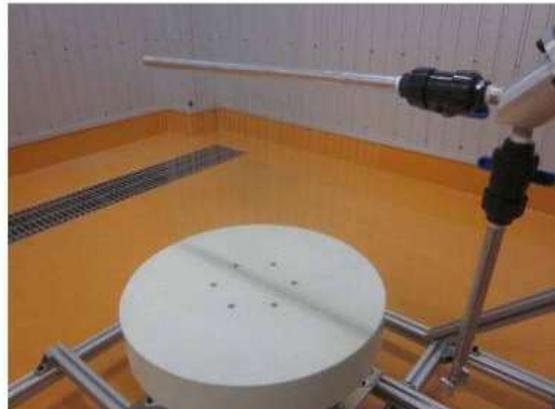
評価実施内容

散水試験	R1・・・ 水滴に触れることのある部品の機能を調べる試験
	R2・・・ 間接的に風雨又は水しぶきを受ける部品の機能を調べる試験
噴水試験	S1・・・ 直接風雨又は水しぶきを受ける部品の機能を調べる試験
	S2・・・ 強い受水状態について部品の機能を調べる試験

R1 及び R2



S1 及び S2



耐荷重: 45kg まで試験実施可能です。

許容サンプルサイズ: 実施可能サンプル寸法は規格に従い、基本的に 40cm の高さで設定していますが、それ以上の寸法であっても対応可能な場合もございますので、指定のサンプルサイズを事前にご連絡下さい。

松阪事業所 : 〒515-1104 三重県松阪市桂瀬町 718-1

URL : www.safetyweb.co.jp E-mail : sales@cosmos-corp.com

【お問い合わせはCS部まで -- TEL:0598-30-5225(直通), FAX:0598-30-5571】

株式会社コスモス・コーポレイション

社長の独り言

2024年3月21日
濱口慶一

能登半島地震で始まった2024年ですが、早くも3か月が経とうとしています。少しバブル気味の株価の上昇や円のドルに対しての安さは、一部の企業にとってはよいのでしょう。ただ、コロナ禍による消費の落ち込みの影響などで売上げの良くない企業なども少なくありません。特に街を歩くと店じまいしている商店の多さに驚きます。政治の方も、国内経済にもっと目を向けていただきたいと思う最近です。

長岡科学技術大学の社会人向け修士課程のシステム安全科を卒業してまもなく1年を迎えます。卒業報告も兼ねて多くのお客様を訪問しましたが、“濱口君、いま話してくれていることと実際のコスモスさんの見積もりや納期が違っており、不満がありますよ”といったような話をされるお客様が多くおられました。学業に励む一方で、実務については社員に任せっぱなしの面があったことを深く反省しています。“お客様目線の営業でなくなってきましたよ”との言葉は、私にとっては厳しくもありがたい指摘です。

コスモスの創業時に、価格は絶対にエーペックス社の半額以上にしない、納期は絶対に負けないように24時間動いてでもお客様の要望に応じていくことをモットーにしてきたつもりでしたが、実際は違っていたことに気づきました。お客様の要望に素直に対応してきたからこそ、37年間企業として成長できたと理解しています。ここで社員全員が反省し、初心に戻り、企業として創立40年を迎えたいと思います。長岡科技大で教えられたいろいろな学科の中でも、技術者倫理感、正しい企業倫理感を持ち、お客様に信頼され、次回もお願いしますと指名されて業務のリポートをいただける社内文化の構築に向け、弊社の品質システムの再構築を始めたいと思います。

その開始にあたり、新しい品質システムとして、長岡科学技術大学教授の梅崎先生が唱えておられた“EBS(Evidence Based Safety)”を基にOriginal Evidence Based Safety System(先月号参照)を導入する一方で、ISO/IEC 17025、ISO/IEC 17065にも確実に適合させて行く所存です。その中で、組織のセキュリティマネジメント規格であるISO/IEC 27001及びISO 15001にも合わせていきたいと思っています。

Original(原紙)に重点を置くと、業務依頼書などについて印を押された原紙の送付など、お客様には少しご負担をおかけすることになりますが、言った、言わない、見た、見せていただいているいないなどの、不毛な議論をなくすためにも必要と考えています。

ISO 31000に基づき弊社の組織を分析すると、いろいろな面でお客様にご迷惑をおかけした原因が少し見えてきました。ISO 31000に説明されている企業文化も組織の中の大きなリスクとして、重要なリスク分析の対象になっています。

創業37年の今、経営者としてやってこれたことに少し有頂天になっていたと思います。社是、宣言(コミットメント)、品質方針なども、各監督署庁のご指摘を受けなくても良いように、事前に何度も監督署庁に通ってご指導を仰ぎたいと思います。

長岡科学技術大学でいろいろと教えていただいたことを活かし、“我が国の最初の民間第三者検査機構”と評価していただけるようにコスモスの品質システムを改良していきますので、ご支援、ご鞭撻を伏してお願い申し上げます。

- ニュースレターの内容

本誌は、EMC、安全、及び省エネ (EMC, Safety and Energy Conservation) 分野に係り、世界の主要機関/地域により実施されかつ電気電子製品デバイスに適合が求められている規格/法規制について、その関連情報を、お届けいたします。

重要情報を幅広く調査、収集、かつ、要約して掲載し、当該分野の最新情報、潮流をすばやく捉えることができるようにいたします。情報源を明示しますので、貴殿の関心により、更に深い調査が可能です。

本誌は各国への技術法規適合製品を試験 認証 開発 管理される部門の方にとり必読の内容です。

- 対象機関/地域: IEC 等国際機関、並びに、FCC, UL を含む米国、EU 及び UK, CENELEC, CEN を含む欧州、その他オセアニア、及び日本を含むアジアの各地域

- 情報源: カバー対象の機関、地域の Web site、或は情報サービス。又、ご協力のご同意を頂いた日本国内及び米国・欧州・中国・韓国・台湾などの当該分野権威者から提供された情報。

- 本誌購読のお申し込み方法

コスモス・コーポレーション CS 部 (カスタマーサービス部) まで Yamashita-jun@cosmos-corp.com
Tel 0598-30-5225 Fax 0598-30-5571

- 発行: 年間 11 回発行。各号 A4 版、40 ページ前後。

- 価格: 各号 2,000 円 (年間購読の場合 1 年 11,000 円)(消費税込)

- 本誌の内容案内、ご購入案内は、<https://www.safetyweb.co.jp/services/other/publication/>

本誌の記事が正確であるよう最大の努力を払っておりますが、間違いが含まれていることがあるかもしれません。本情報をご使用になられる場合はご自身でもう一度ご確認ください。

株式会社コスモス・コーポレーションは、下記 Web site の運営体からそれぞれ個別の条件の下、Web 情報の引用、転載につき許可を頂いております。翻訳転載された記事の著作権は原著作権者に属します。本誌掲載記事の無断転載を禁じます。本誌の複製、再配布は電子的なものを含み禁じます。

国際機関	IEC: International Electro technical Commission	国際電気標準会議
米州	A2LA: American Association for Laboratory Accreditation	米国試験所認定協会
	ANSI: American National Standards Institute	米国規格協会
	FCC: Federal Communications Commission	連邦通信委員会
	IEEE: Institute of Electric and Electronics Engineers	米国電気電子学会
	CSA: Canadian Standards Association	カナダ規格協会
欧州	CENELEC: European Committee for Electro technical Standardization	欧州電気技術標準化委員会
	ECO: European Communications Office	欧州通信オフィス
	ETSI: European Telecommunications Standards Institute	欧州電気通信標準協会
	EU/EC: European Union/European Commission	欧州連合/欧州委員会
オセアニア	ACMA: Australian Communications and Media Authority	オーストラリア通信/メディア局
	NZ: New Zealand Government Radio Spectrum Management	ニュージーランド政府 RSM
アジア	BSMI: Bureau of Standards, Metrology & Inspection	台湾經濟部標準檢驗局
	CNS: Chinese National Standards Online Service	台湾中国国家規格検索システム
日本	METI: Ministry of Economy, Trade and Industry	経済産業省
	MIC: Ministry of Internal Affairs and Communications	総務省
	NPB: National Printing Bureau	独立行政法人国立印刷局
	VCCI: Voluntary Control Council for Interference	一般財団法人 VCCI 協会

Cosmos Corporation is granted the copyright authorization for the reproduction of the Web site information from the above listed organizations with the individual condition. Further use, modification, redistribution of the information on the Cosmos Newsletter on EMC & Safety is strictly prohibited.

コスモス ニュースレター EMC & 安全 (Cosmos Newsletter on EMC & Safety) 2024-04-01 (No. 162)

発行所: 株式会社 コスモス・コーポレーション 本社・松阪事業所

住所: 〒515-1104 三重県松阪市桂瀬町 718 番地 1

ホームページ: <https://www.safetyweb.co.jp/>

発行人: 濱口慶一

編集人: 倉品光雄 iNARTE 認定 Certified EMC Engineer (EMC-002315-NE)

© 2024 株式会社コスモス・コーポレーション Cosmos Corporation

本誌の複製、再配布は電子的なものを含み禁じます。